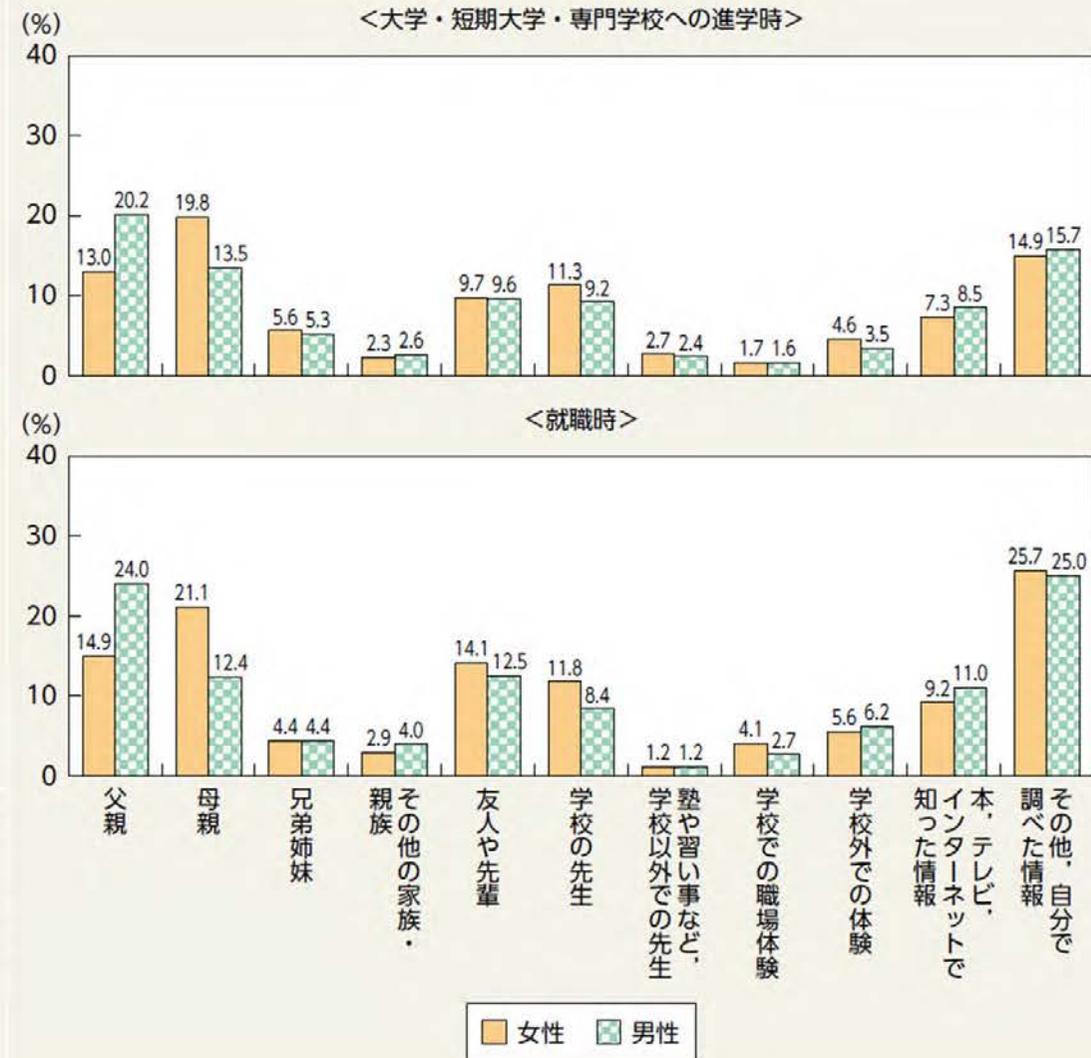
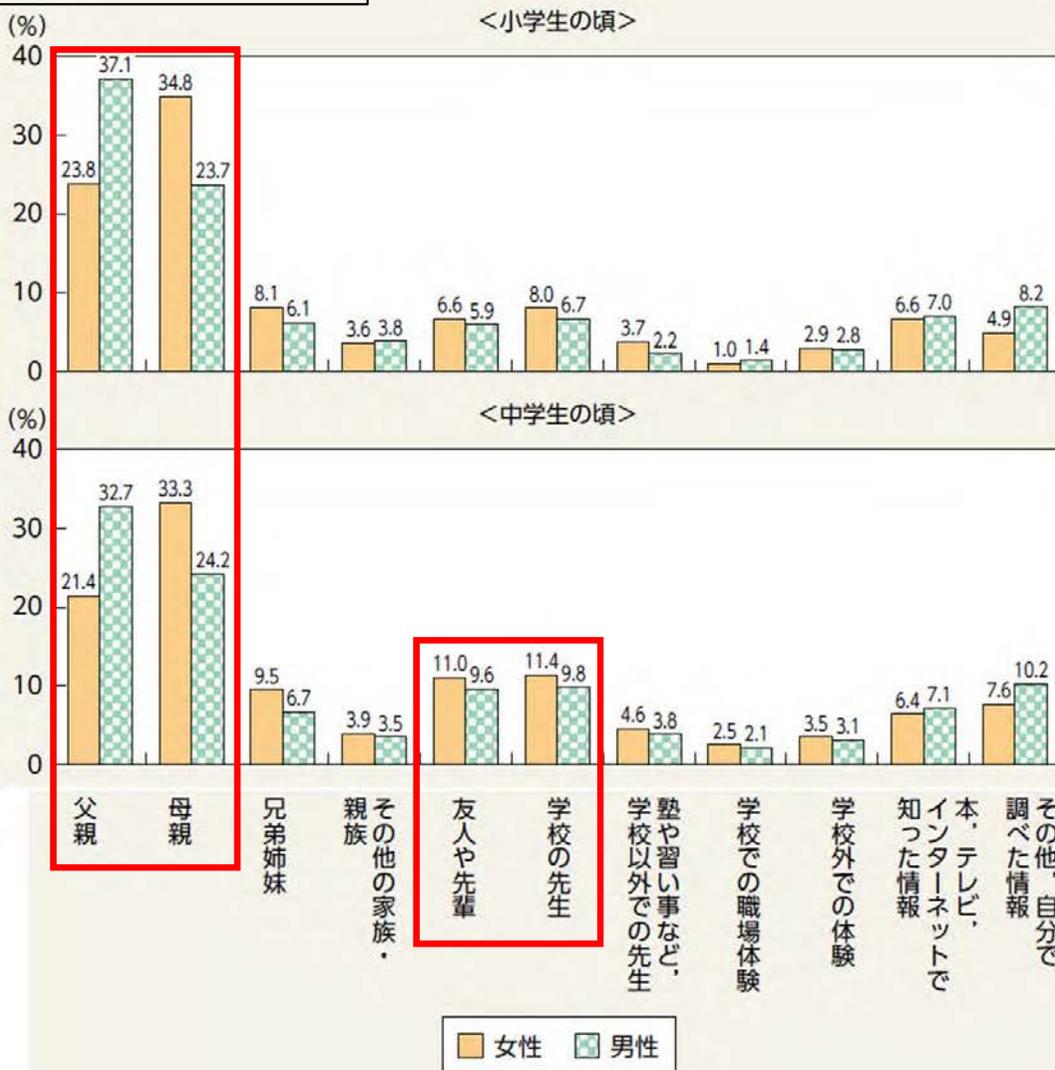


進路選択等において影響を受けるもの

- 小・中学生の頃、大学等への進学時、就職時を通して女性は母親、男性は父親と同性の親の影響が顕著
- 中学生では小学生と比較し、「友人や先輩」「学校の先生」から受ける影響が大きくなる。
- 大学等の進学時や就職時では「その他、自分で調べた情報」の割合が高まり、親からの影響が低くなる。

22歳～59歳の男性3000人、
女性3000人を対象

働く上でのイメージや進路選択において影響を受けたもの



(備考) 1. 「多様な選択を可能にする学びに関する調査」(平成30年度内閣府委託調査・株式会社創建)より作成。
2. 女性3,000人、男性3,000人が回答。

女性の理系選択の「壁」と思われる要因と理系の進路を選択した理由

- NISTEPが実施したアンケート調査（左）では、女性の理系選択の「壁」として何が考えられるかとの問いに対し「**ライフイベントとキャリア形成の両立が難しい**」との回答が多い（回答は男子学生からのものも含む）。
- 大学進学時点では「**理系は男性の学部**」というイメージを持った学生が多い。
- 女子学生が理系の進路を選択する上では、**初等中等教育の授業、近親者、自身の自然体験や気づきの影響**が大きい。

大学学部生 3,231名を対象に調査（男性1,189名 女性2,042名）

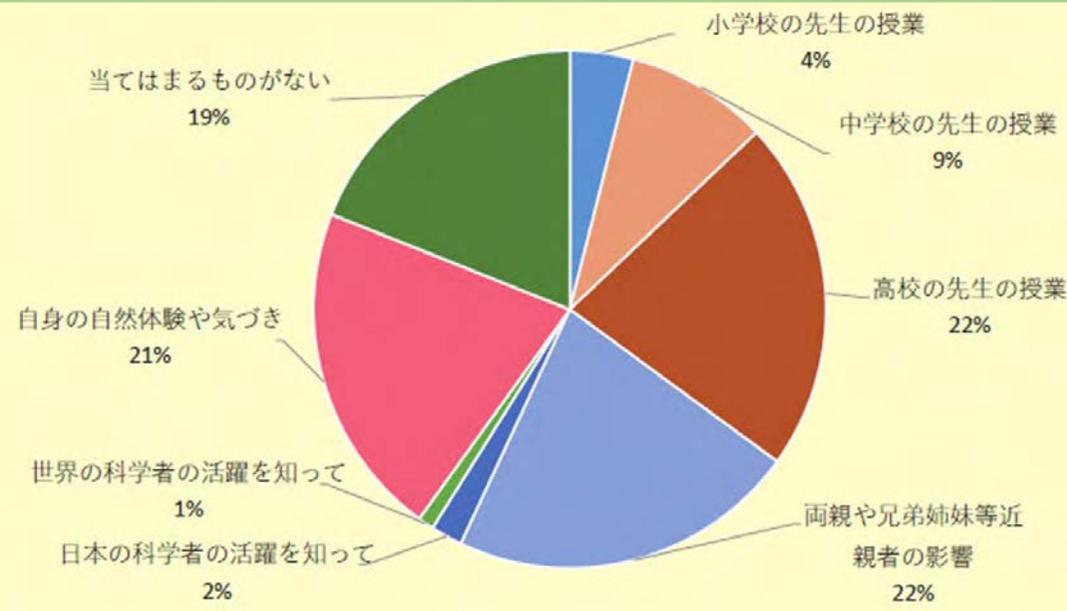
女性の理系選択に対する意識調査結果（複数回答可）

第1-1-80図 女性の理系選択に対する意識調査結果（複数回答可）



資料：科学技術・学術政策研究所「大学学部生の科学技術情報と進路選択に対する意識（平成30年3月）」、調査資料-272

女子学生が理系の進路を選択した理由



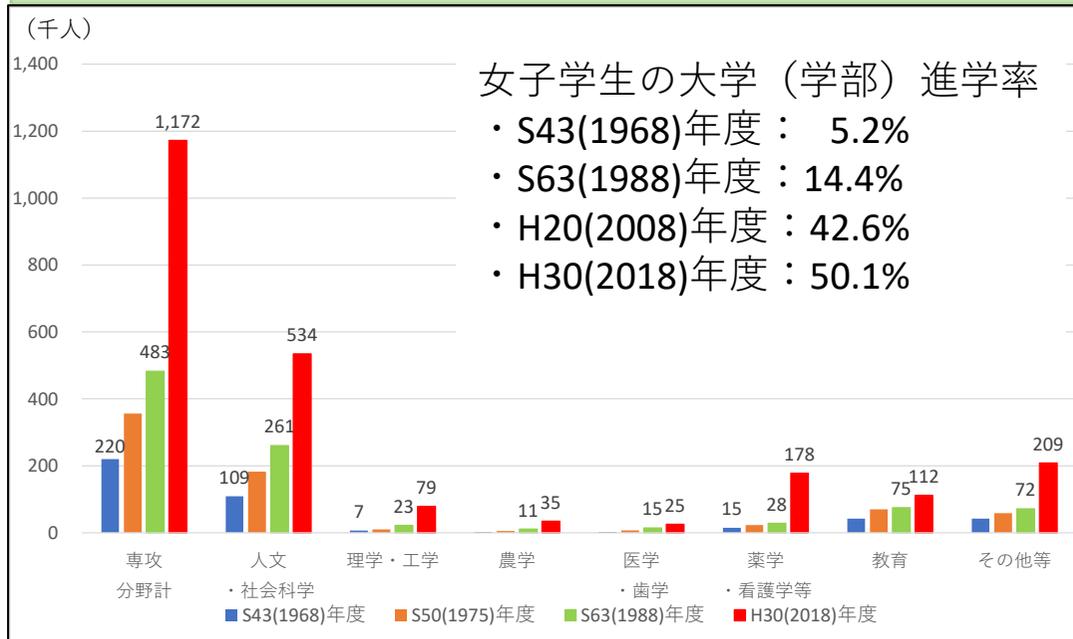
資料：日本ロレアル「理系女子学生の満足度に関する意識調査（平成26年8月）」を基に文部科学省作成

参考資料

- 大学(学部)学生に占める**女子学生の人数**は、**進学率の大幅な上昇(1988:14.4%→2018:50.1%)**により、**この30年間で女子学生数は48万人から117万人と2.4倍に増加**。
- 増加した69万人のうち、**専攻分野では人社会系27万人増、薬学・看護学系は15万人増**であるのに対し、**理学・工学系は6万人増**にとどまる。
- そのため、理学・工学分野では男女数の著しい差があり、それぞれの全体に占める割合も20%の差(女性:7%-男性:27%)

- ※ 大学(学部)の女子学生の進学率:14.4%(1988年度)→50.1%(2018年度)
- ※ 大学(学部)学生に占める女子学生の人数:人社会系_261千人(1988年度)→534千人(2018年度)
理学・工学_23千人(1988年度)→79千人(2018年度)

大学(学部)学生に占める女子学生の人数の推移

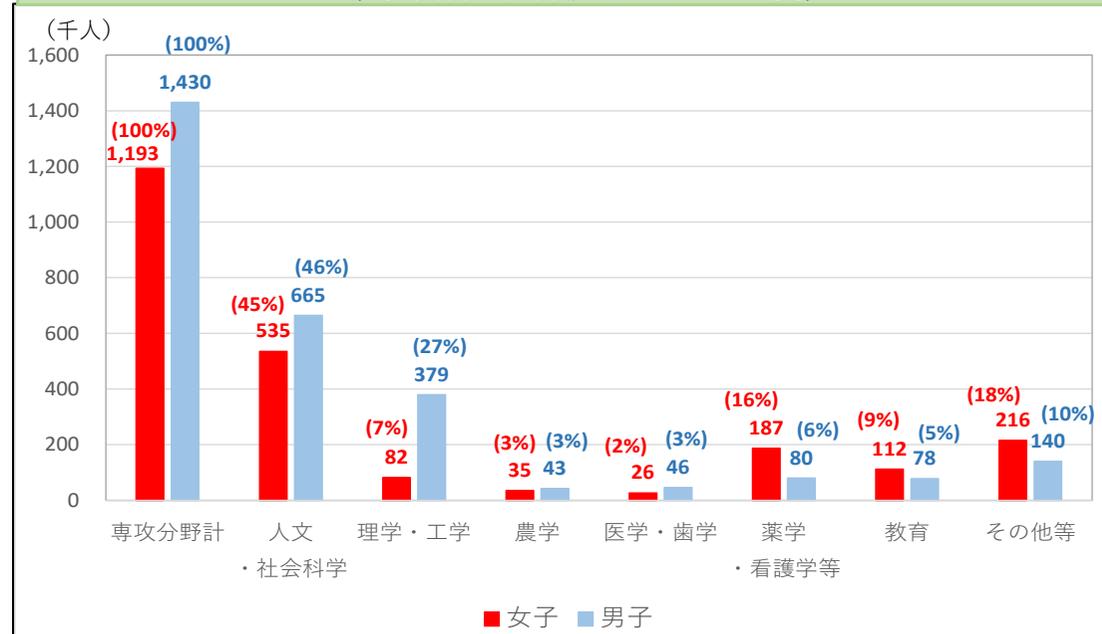


女子学生の大学(学部)進学率

- ・ S43(1968)年度: 5.2%
- ・ S63(1988)年度: 14.4%
- ・ H20(2008)年度: 42.6%
- ・ H30(2018)年度: 50.1%

文部科学省「学校基本調査」より作成

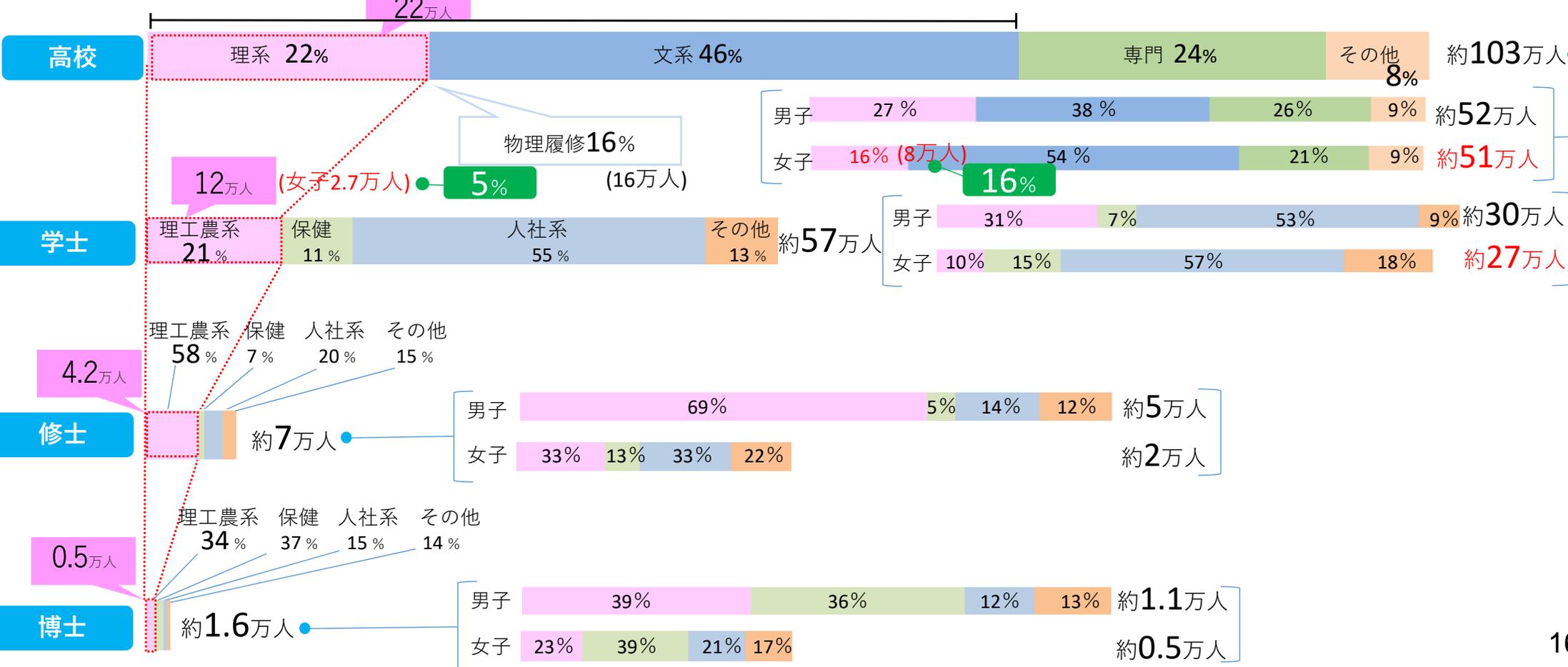
大学(学部)学生の男女別の人数と割合(専攻分野別、令和2年度)



高校教育から大学・大学院教育における専攻分野の推移(学年単位)

7月29日木曜会合資料より

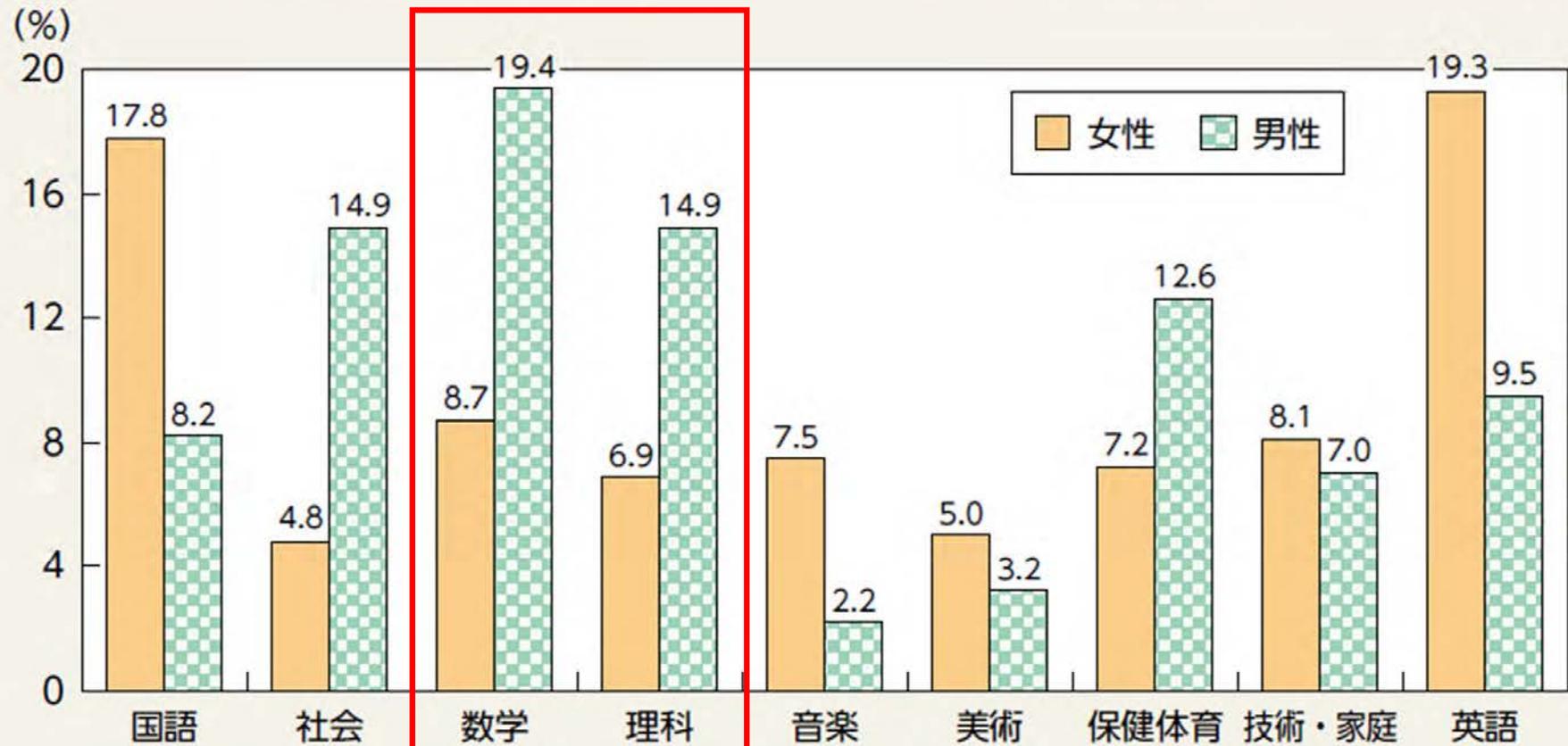
- 義務教育終了段階では比較的高い理数リテラシーを持つ女子生徒は20万人程度 (39%)
- 高校で理系を選択する女子生徒は8万人 (16%)。中でも物理履修は5.8万人 (11%推計)
- 大学(学部)で理工農系を専攻する女子学生は2.7万人 (5%) (すべて一学年の数)



理工系への進学が少ない背景(女性教員の教科別割合)

- 中学校では国語や英語で女性教員が多く、数学や理科では男性教員が多い。
- 好きな科目の男女の傾向と一致。

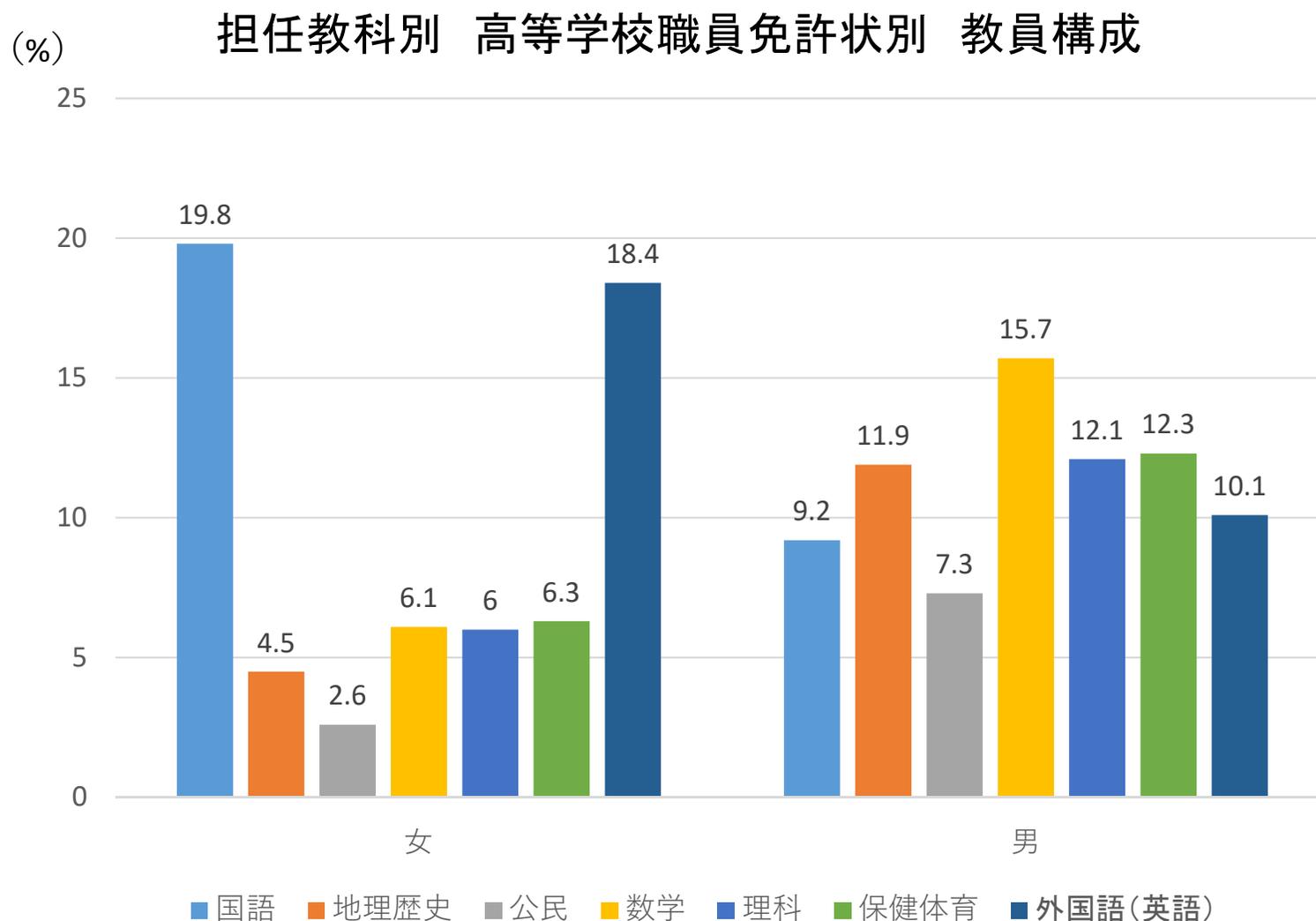
担任教科別、教員免許状別教員構成(中学校)



- (備考) 1. 文部科学省「学校教員統計調査」(平成28年度)より作成。
2. 2教科以上担任している教員はそれぞれの教科に計上した。

理工系への進学が少ない背景(女性教員の教科別割合)

●高等学校でも中学校と同様、国語や英語で女性教員が多く、数学や理科では男性教員が多い。



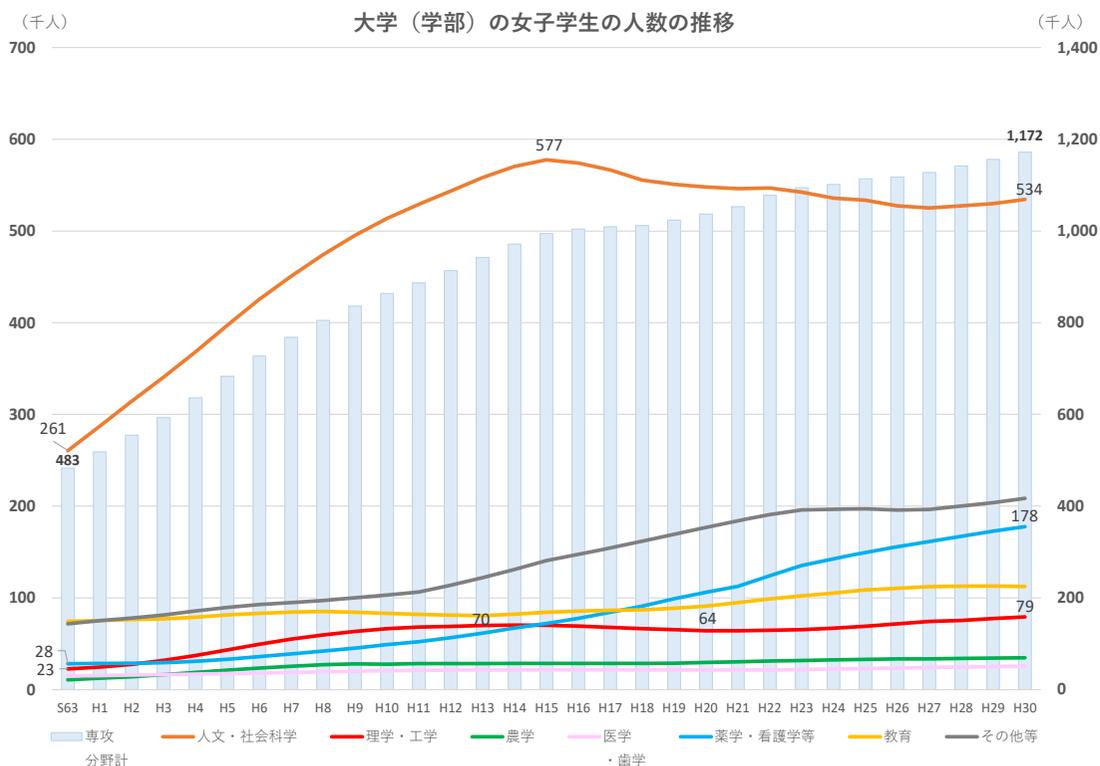
文部科学省「学校教員統計調査」(平成28年度)をもとに作成

大学(学部)学生における専攻分野別の人数の推移

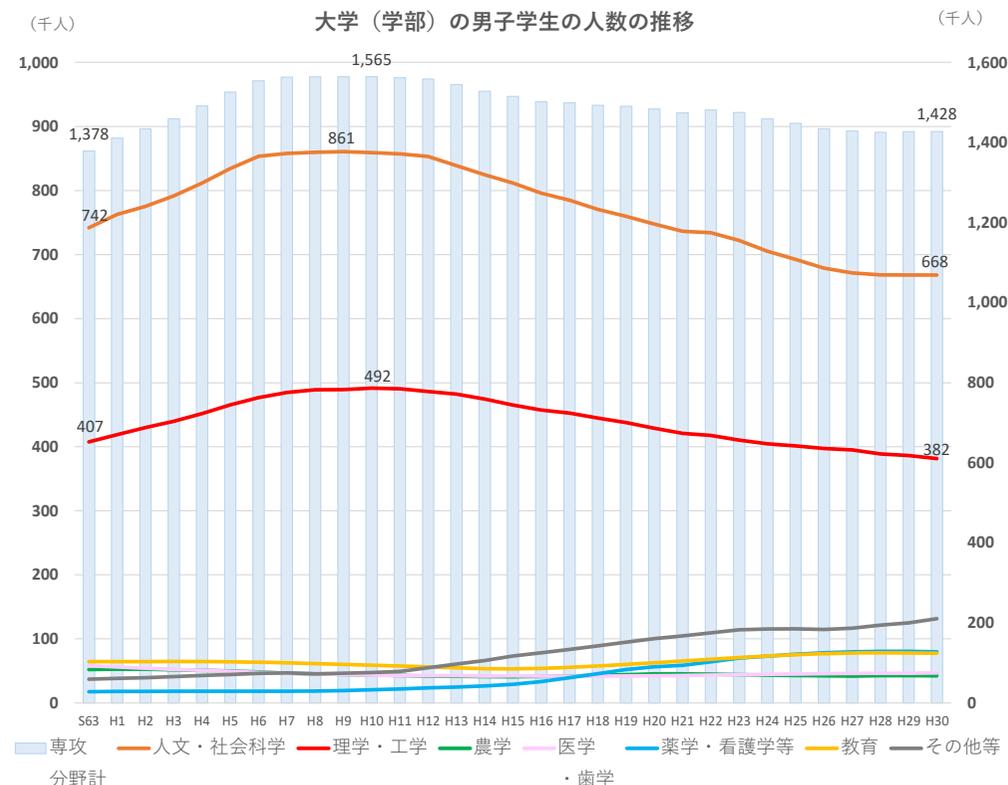
●S63～H30年度の30年間で、大学(学部)の女子学生の人数は増加傾向。内訳を見ると、人文・社会系はH15年度をピークに減少傾向、理工系では緩やかな増加傾向、薬学・看護学系、その他等では増加傾向が大きい。

●男子学生の人数はH10年度をピークに減少傾向。内訳を見ると、人文・社会系はH9年度をピークに減少傾向、理工系においてもH10年度をピークに減少傾向、その他等が増加傾向が大きい。

大学(学部)の専攻分野別の女子学生の人数の推移



大学(学部)の専攻分野別の男子学生の人数の推移

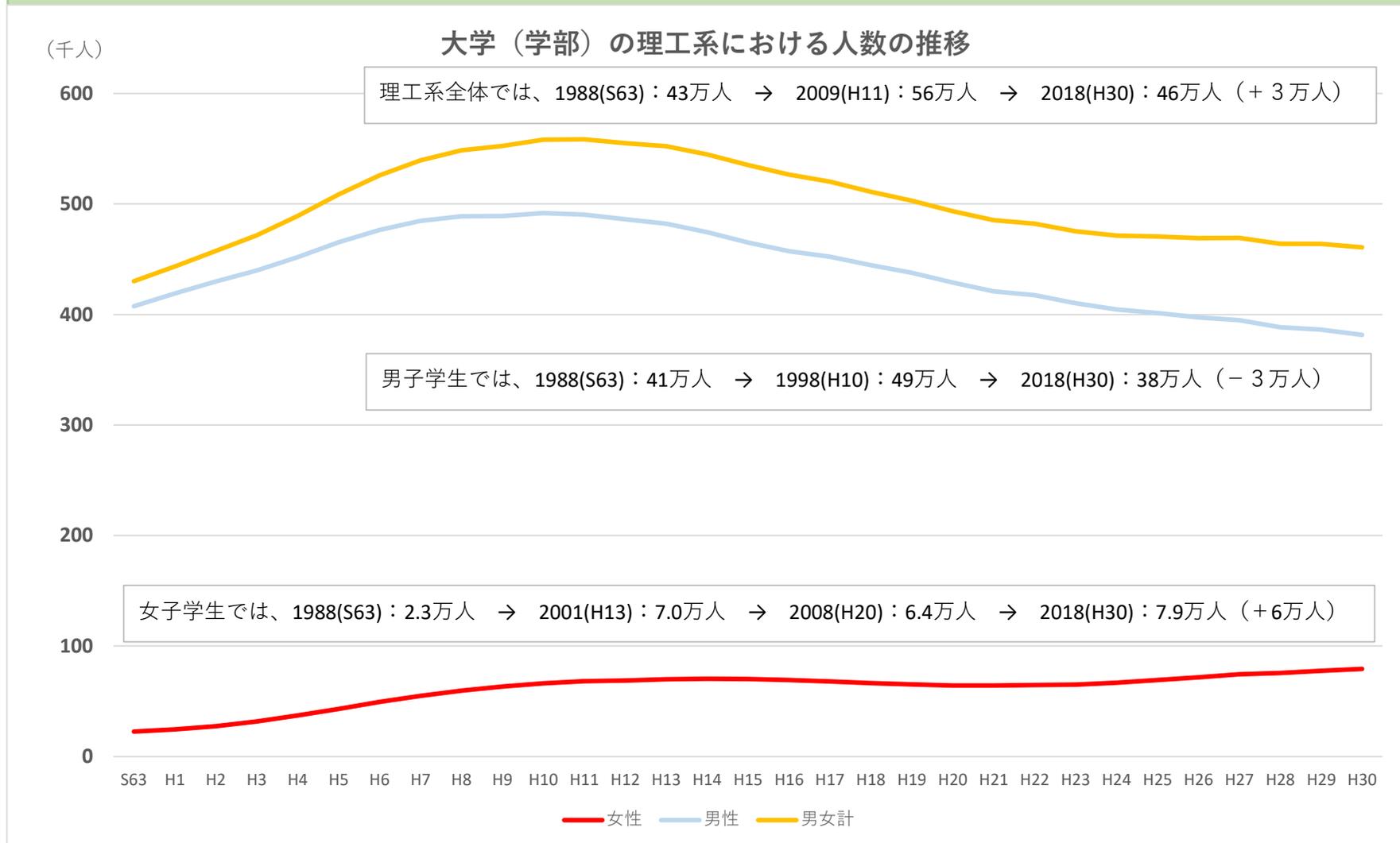


文部科学省「学校基本調査」より作成

大学(学部)学生における理工系分野の人数の推移

●S63からH30年度の30年間では、大学(学部)の理工系分野の男女全体の人数は3万人の増加(男子：3万人減少、女子：6万人増加)。男子学生ではピーク時の平成10年度の49万人と比較すると平成30年度では11万人減少している。女子学生では、平成13年度に7万人達したあと、平成20年度まで減少傾向となるが、その後、増加傾向に転じ、平成30年度では約8万人となっている。

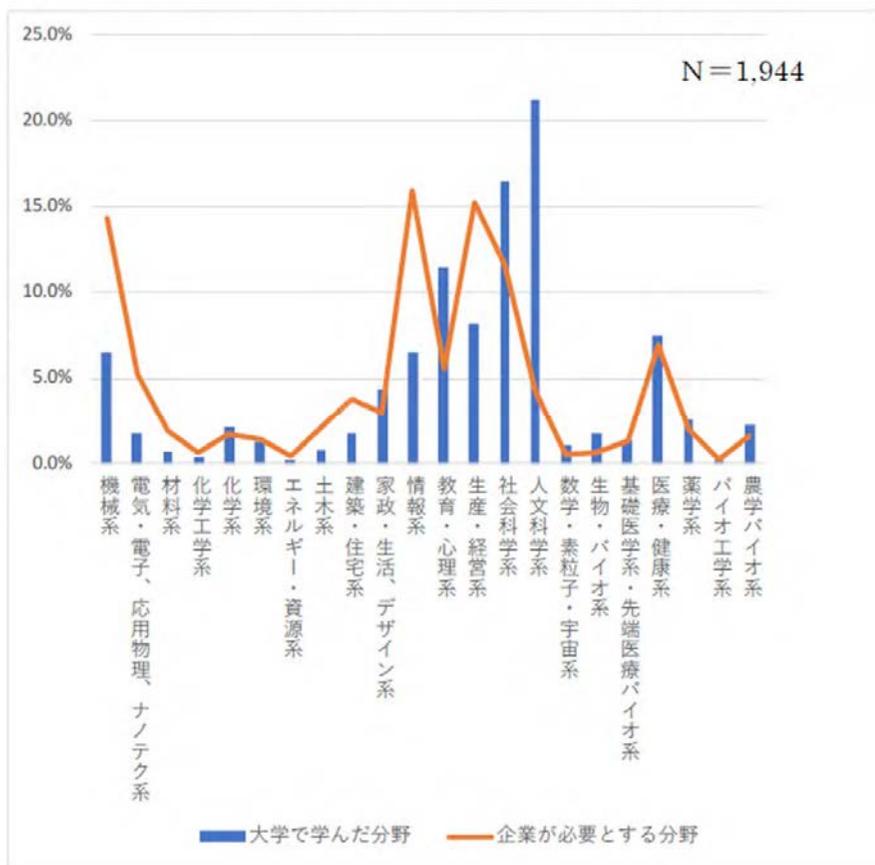
大学(学部)の理工系分野の男女別の人数の推移



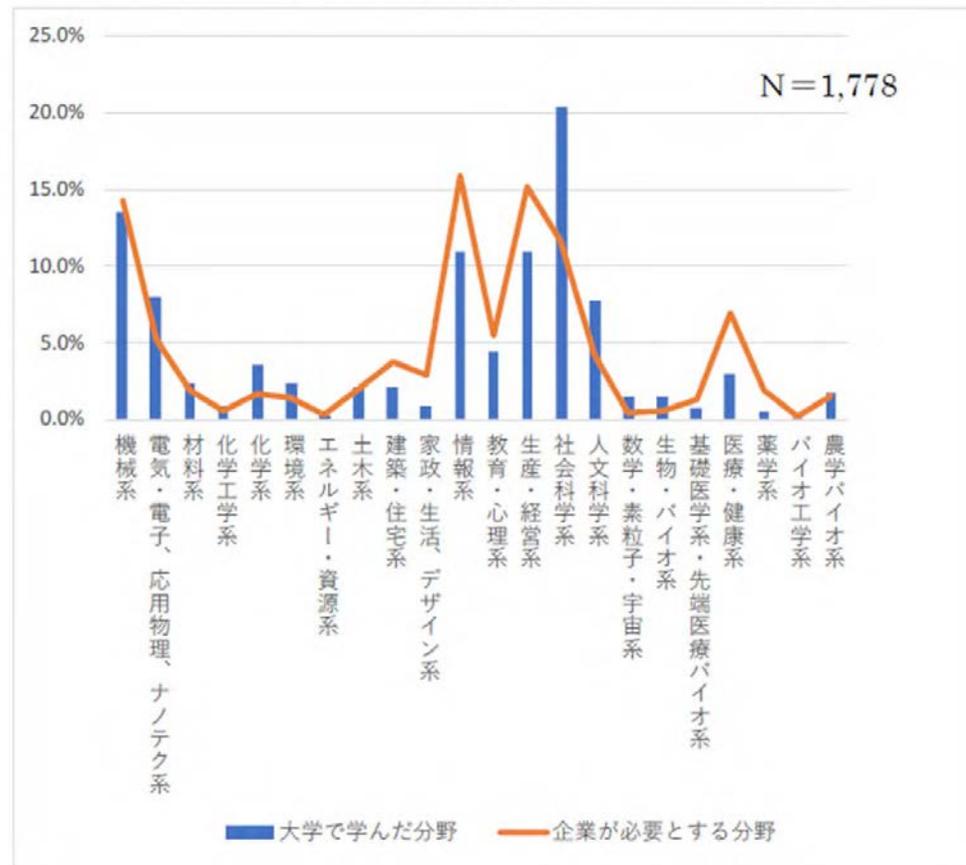
企業と大学の人材需給ギャップ

- 男性・女性ともに、社会科学系では大学の「供給」が企業の「需要」を上回り、情報系では企業の「需要」が大学の「供給」を上回っている。
- 女性の方が、この需給ギャップが大きくなっている。

2 2分類 性別（女性）の需給ギャップ（全体）



2 2分類 性別（男性）の需給ギャップ（全体）



理数系科目学習が所得に及ぼす影響

- 理系学部出身者に関しては、物理を得意とする者が化学や生物を得意とする者より所得が高い。
- 文系学部出身者に関しては、**大学入試において数学を受験した者が受験しなかった者より所得が高い。**

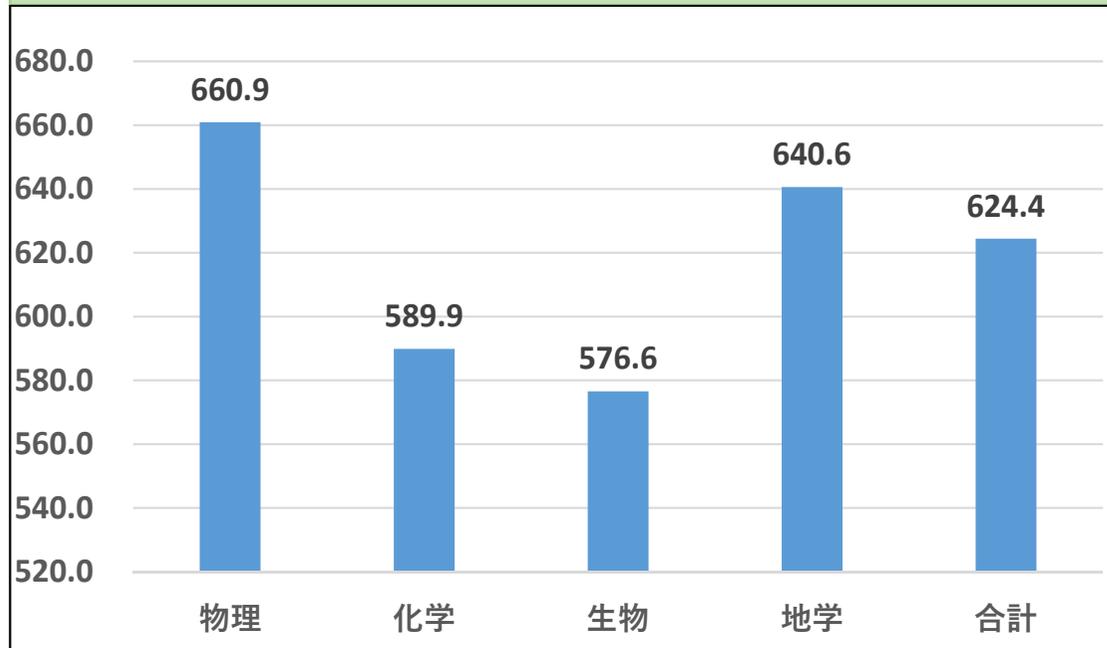
公表時期：2012年4月

【調査の概要】

2011年2月に日本の大学卒業者の学習内容と現在の年収について、アンケート調査を行い、13,059人から回答を得た。

(そのうち理系学部出身者は4,083人(平均年齢44.4歳)で約3割、文系学部出身者は8,976人(平均年齢42.5歳)で約7割)

理系学部出身者の理科の得意科目別平均所得(万円)



文系学部出身者の数学受験状況別平均所得(就業者)

	標本数	平均年齢	平均所得	所得標準偏差	平均所得の標準誤差
数学受験	3977	43.5	532.2	369.5	5.86
数学未受験	3795	41.4	443.1	319.7	5.19

数学受験者は平均所得が高い